



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

2017.4.4. NO. 1471.

ご相談はお気軽に
TEL とも **3905-0970**
FAX

さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

日本共産党議員団
区役所内 3908-7144

4月開設 血液内科 63ベット増床へ



祝 竣工
地域医療振興協会 東京北医療+

◎3月25日におこなわれた竣工式に出席しました。

◎特色のひとつは、血液内科(33床)の新設と無菌室の入院個室なども。

◎また、病児・病後見保育も、北区からの要請で7月開設。



赤羽北さくら荘とのぞみ保育園
3月30日に開所式で4月オープン

◎先日の内覧会にうけて式典。

東洋大の新キャンパスも4月開校
INIAD 情報連携学部 のよび名 イニアドです。



あたたかな
出会いの
季節
です。

徹底追及で闘を暴く
日本共産党街頭演説
書記 局長 **小池あきら**

4月9日 @ ぞご 2時
赤羽駅東口 23番

ぞねはじめ都議 池内さおり 衆議院議員



27日、ニューヨークの国連本部第4会議場で開かれた「国連会議」に出席した志位和夫委員長(左)と笠井亮政策委員会責任者(右) (池田誠二撮影)

志位和夫の文書と発言
~PNNDの一員として、公式に参加して~

「核兵器禁止条約の国連会議」の開催を心から歓迎。

「核兵器のない世界」を達成し維持するための法的措置——二つのアプローチ。

核保有国の参加を追求しつつ、参加が得られなくても賛成する諸国で禁止条約締結を。

日本は、被爆国政府として、核兵器禁止条約に賛成の態度を。

核兵器禁止条約を 実現させよう「国連会議」 日本を代表して被爆者とともに 志位和夫と笠井亮衆議院議員

◎歴史上初めて、核兵器禁止条約を正面の主題に選んだ「国連会議」が、3月27日、ニューヨークの国連本部ではじまりました。



115か国が参加に

◎日本政府は初回のみ、反対の主張を展開しました。

「国連会議」と報じたNHKトップニュース 志位和夫委員長が登場しました。

◎被爆国日本の政府は、昨年12月23日の国連総会決議に反対しました。このことについて、27日、ニューヨークの国連で訴えた、被爆者の藤森俊希さん(72)は、「心が裂ける思いだった」と述べました。しかし、ヒバクシャがよびかけた「国際署名」には、現在172万人が集まっており、「決して落胆していません」「法的拘束力のある条約の成立」を。

それはじめ都議・党都議団は、小池知事が初めて編成した「平成29年度予算」に、長々非々の立場から賛成。その上、豊洲への移転中止と築地再整備とを



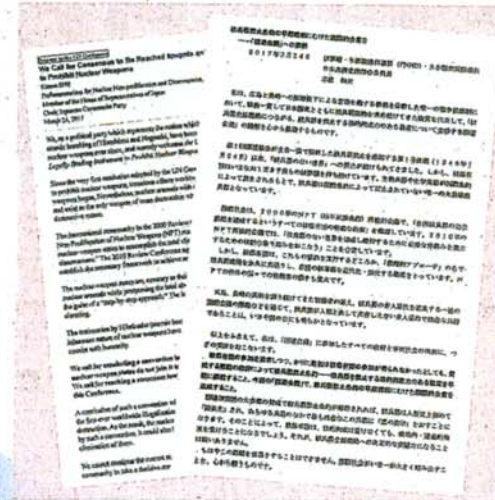
衆議院内閣委員会など、女性の人権を守れ、JKビジネス・AVビデオの被害者の声を代弁し、政府を動かしている池内さおり衆議院議員

志位委員長が要請文で行った提起の中心点は、次の通りです。

「核保有国の参加を追求しつつ、かりに最初は核保有国の参加が得られなかったとしても、賛成する諸国の政府によって核兵器禁止条約―核兵器を禁止する法的拘束力のある協定を早期に締結すること。今回の『国連会議』で、核兵器禁止条約の早期締結にむけた国際的合意を達成すること」

党代表団は、要請文を手に、会議が始まる前の3月23日から最後まで精力的に活動し、38の国・機関と懇

談を行いました。



志位委員長が「国連会議」に提出した要請文

●ヘレナ・ノーラン外務省軍縮不拡散局長

(要請文は) 私たちのアプローチと全く一緒です。広島、長崎の経験がこの会議を開催に導きました。核兵器禁止の問題は、道徳的と同時に、法的にも取り組む義務があります。アイルランドでは全政党、国民が禁止条約を支持しています。日本からこの会議に国

●トーマス・ハイノッチ軍縮大使

(要請文は) たいへん良いものです。この会議の目的を支持していただき感謝します。日本でも多くの人に訴えて支持を広げていた

です。日本からこの会議に国會議員が来てくれうれしく



アイルランドのノーラン外務省軍縮不拡散局長(左から2人目)と懇談する志位委員長(その右) = 3月29日、ニューヨーク(遠藤誠二撮影)

ています。今度の会議は最初の一步です。今後、一つ一つ具体的措置を積み上げていきます。化学兵器や生物兵器では禁止条約を実現しました。核兵器でできな

4/8のしんぶん赤旗の一部を紹介

思います。引き続き参加を期待します。

オーストリア

日本を代表し、志位委員長38の国々と懇談

要請文の立場は理性的

核兵器禁止条約の早期締結を



ローマ法庁(バチカン市国)
●国連代表部・サイモン・カサス神父
会議での(志位委員長)の演説に感謝します。要請文の立場は、理性的なもので、よく理解できます。(まず禁止条約で一步を踏み出すという指摘)その通りです。